

支援場面にある経験知の整理

佐野 仁美

聖隷クリストファー大学介護福祉専門学校

Organize experience knowledge in the support scene

Hitomi SANO

Seirei Christopher University College of Care Work

抄録

福祉・介護福祉の科学的な根拠ある実践のためには、課題解決思考と支援技術が必要である。一つとして同じ支援場面はなく、専門性を修得するプロセスは個々の環境や経験の違いの影響を受けるものであることがわかる。先行研究のキーワードを軸にして、福祉・介護福祉の専門性の修得に関わる経験の整理を試みた。領域に共通する特徴（繰り返し実践、他者や利用者との関わりから得るものがある、自ら自分の経験や体験を振り返り言語化する、その過程が福祉専門職の実践である）等の整理ができたが、多様な人材で担われる福祉現場での専門性の確立に向けた実践や、世間一般の方の福祉・介護福祉の専門性の理解促進のためには、更なる“専門性の見える化”が必要である

キーワード：専門性、経験、経験知、実践、実践知

Key words : expertise, experience, experience knowledge, practice, practical knowledge

I. はじめに

福祉・介護福祉の仕事は一生をかける価値のある仕事、すなわち専門性がある仕事であり、介護福祉は人間科学である¹⁾。人間科学は個人の経験が出発点となり²⁾ 主体性を伴うものであり、その哲学的要素を含む仕事を行うのが介護福祉士である³⁾ と、黒澤は述べている。しかし、その支援場面には一つとして同じものは無く、世間一般の方にその専門性を理解してもらうことは難しい。

介護福祉士の専門性とは、介護福祉士が行う介護実践1つひとつに、科学的な根拠があるということである。利用者の生活課題を解決するための思考過程である介護過程を展開するために専門的知識を用いた課題解決思考の修得と生活支援技術の修得をすることにより、利用者の心身の状況に応じたその人らしい生活支援の実践が成り立つ。それらの修得は経験や場当たり的にできるものではなく学習の積み重ねと一定の時間を要する⁴⁾ とされており、個々におかれた環境や経験の違いの影響を受けるプロセスであることが理解できる。

そこで今回は、福祉・介護福祉分野の専門性修得の背景には、個人のどのような経験や実践が関係しているのか、「経験」「実践」をキーワードにその整理を通して“専門性の見える化”を試みる。

II. 方法

介護福祉、社会福祉、精神保健福祉の支援場面に関わる論文の中から、タイトルに「経験」「実践」にかかわるものが含まれるものを検索した。検索の結果、抽出数が少なかったため、キーワードに「経験知」「実践知」を含め、再

度検索を行った。各論文からキーワードを含む文章を抜き出し、KH Coderを用いた計量テキスト分析を行い、考察した。なお、定義について述べられる個所は、今回の整理の趣旨と外れるため省くこととした。

III. 結果と分析

1. 概要

今回、分析の対象とした6研究の中から、それぞれ「経験知」「経験」「実践知」「実践」のキーワードを含む文章を359抽出した。総抽出語数16,545から、6,519語が分析に使用された。

2. データの把握

1) 抽出語の把握

頻出語上位20項目を一覧にした(表1)。福祉分野のキーワードを含む文章を抽出したため、関連したものが上位に挙がった。

表1：全体の抽出語（上位20語）

	抽出語	頻度
1	実践	387
2	知	129
3	福祉	124
4	経験	118
5	概念	96
6	社会	63
7	自分	62
8	自ら	50
9	形成	49
10	現場	48
11	振り返る	47
12	専門	45
13	利用	42
14	体験	39
15	過程	36

16	言語	36
17	研究	31
18	影響	30
19	支援	30
20	援助	29

2) 全体の把握

全体の語の関係性は、図1の通りである。①実践・経験や実践知の形成について、②実践・経験の振り返り、可視化について、③専門職、専門性について、④実践の動機、利用者との関わりについて、⑤仲間との関係について、⑥事例検討について、⑦職員間での支援方法の共有について、⑧経験プロセスについて、に分類できた。取り上げなかったデータは、そのつながりが単語を形成するもの、意味の整理ができなかったものである。

3. 分析

1) 専門性との関係

全体の中で専門性がどのようにつながっているのか、関連語「専門」での把握を行った(図2)。

①実践の過程と実践知の形成、②実践に至るまでの動機と専門教育の意義、③他分野から得られることと言語化の必要性、④人との関わりから獲得、⑤資格取得に必要な知識と時間、⑥理論と実践とのつながり、⑦実践から得た可能性と教訓、⑧実践の振り返りが次の実践に活かされる、に分類でき、それぞれ専門に関わっていることが把握できた。取り上げなかったデータは、そのつながりが単語を形成するもの、意味の整理ができなかったものである。

2) 対応分析からみる領域別の特徴

使用した6つの先行研究のうち5つは、介護福祉、社会福祉、精神保健福祉の領域で、1つは介護・福祉としてまとめられていたため、ここでは、領域を軸にそれぞれの特徴を整理する。以下()内の数字はコード数である。

①介護福祉の特徴

布置されたコードから、“振り返る(47)” “影響(30)” “気づく(22)” “仲間(21)” とのつながりが特徴として挙げられる。実践の

図1：全体像

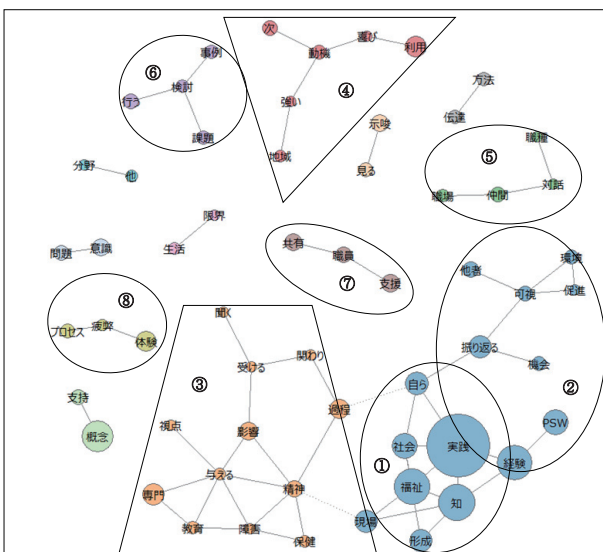


図2：関連語「専門」での把握

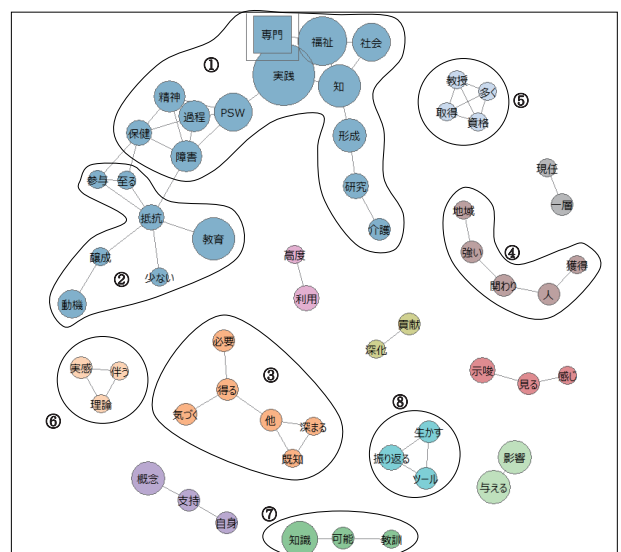
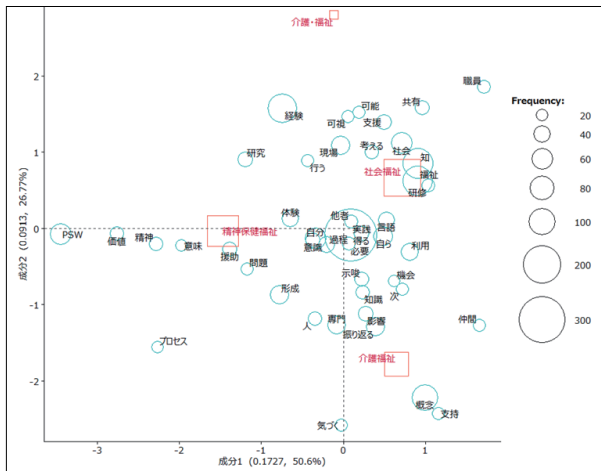


図3：対応分析「領域」での特徴



振り返りや影響、気づきを他者や仲間との関係を通して学ぶ機会が多く、介護福祉の実践・経験につながっている。（“概念”“支持”の2つは、研究内手法に関するコードとなるため、外す。）

②社会福祉の特徴

布置されたコードから、“共有 (28)” “考える (27)” “研修 (24)” とのつながりが特徴として挙げられる。積極的に研修に参加し実践を振り返り考えるだけでなく、他者と共有しネットワークを構築している実践・経験について整理できた。（“福祉” “知” “現場” “社会” の4つは、資格名称（社会福祉士）や、全領域に関わる内容（経験知、福祉現場）、のため、外す。）

③精神保健福祉の特徴

布置されたコードから、“援助 (29)” “価値 (27)” “意味 (20)” とのつながりが特徴として挙げられる。他分野との協働の中で行われる支援内容を意味づけし、福祉分野での支援の価値を考え、援助観を構築している実践・経験について整理できた。（“精神” は、支援内容や支援の場、対象者に関わる内容（精神保健福祉、精神医療、精神障害など）のた

表2：領域の特徴（概要）

	介護福祉	社会福祉	精神保健福祉
つながるコード	振り返る (47) 影響 (30) 気づく (22) 仲間 (21)	共有 (28) 考える (27) 研修 (24)	援助 (29) 価値 (27) 意味 (20)
外したコード	概念 支持	福祉 知 現場 社会	精神

め、外す。）

3) 対応分析からみる領域に共通した特徴

原点近くに布置されたコードは、“実践 (387)” “他者 (23)” “得る (30)” “過程 (36)” “自分 (62)” “意識 (28)” “自ら (50)” “言語 (36)” “体験 (39)” “利用 (42)” である。繰り返し実践すること、他者や利用者との関わりから得るものがあること、自ら自分の経験や体験を振り返り言語化すること、その過程が福祉専門職の実践であること、これらは領域に関わらず共通する事項であることを整理することができた。

3領域の特徴（概要）を、表2に示す。

IV. おわりに

今回は、黒澤の提言を契機とし、福祉・介護福祉の専門性に関わる経験についての整理を試みたが、全体の概要、領域別とキーワード「専門」との関係での整理・把握に留まった。まずキーワードで絞り先行研究を選定してしまい取扱った数が少ないこと、さらに筆者がKH Coderを用いた計量テキスト分析の初学者であることの影響は大きく、ごく限られた形だけの整理と

なってしまったことを振り返り、今後の課題としたい。

黒澤は、「人間科学は人間と人間の関係ですが、医学的、物理的な知識を入れていかないと本当の人間理解にならない³⁾」とし、福祉・介護福祉には自然科学と人間科学の両方が必要であることを説いている。国民の権利である福祉には“根拠ある実践”が必要であり、それぞれの場合で“専門性の確立に向けた実践”が求められている。

多様な人材で担われている実践現場においての専門性の確立や、世間一般の方の福祉・介護福祉の専門性の理解促進のためにも、継続して専門性に関する実践・経験に着目した整理を幅広く丁寧に行い、“専門性の見える化”を進めていきたい。

資料

今回対象とした先行研究は以下の6つである。

- ・「介護・福祉における経験知伝達の課題と改善」楊成寧
- ・「社会福祉における実践知の共有によって期待される効果」岡野弘美
- ・「[現場]での[経験]を通じたソーシャルワーカーの主体的再構成プロセス－医療機関に勤務する精神科ソーシャルワーカーに着目して－」横山登志子
- ・「精神保健実践者の「実践知」形成過程に関する実証的研究」齋藤征人
- ・「社会福祉士の「実践知」形成過程に関する仮説的研究」齋藤征人
- ・「高齢者福祉実践者の「実践知」形成過程に関する仮説的研究」齋藤征人

引用・参考

- 1) 日本介護福祉士会事務局「黒澤貞夫氏にきく 介護福祉と介護福祉士の専門性についてテーマ①「介護福祉は人間科学」」<https://www.youtube.com/watch?v=VZxrqqJtGwM&feature=emb_logo> (2020年12月2日参照)
- 2) 日本介護福祉士会事務局「黒澤貞夫氏にきく 介護福祉と介護福祉士の専門性についてテーマ②「哲学的思考を基盤とした人間科学」」<https://www.youtube.com/watch?v=4wmp4GvskDk&feature=emb_logo> (2020年12月2日参照)
- 3) 日本介護福祉士会事務局「黒澤貞夫氏にきく 介護福祉と介護福祉士の専門性についてテーマ③「人間科学と自然科学の違いは「主体性」」」<https://www.youtube.com/watch?v=-ghn3iVZsdQ&feature=emb_logo> (2020年12月2日参照)
- 4) 介護福祉士養成講座編集委員会(2019)「最新 介護福祉士養成講座9 介護過程」中央法規出版
- 5) 樋口耕一(2014)「社会調査のための計量テキスト分析」ナカニシヤ出版
- 6) 樋口耕一他(2018)「KH Coderを用いた計量テキスト分析実践セミナー初級編」SCREEN アドバンスシステムソリューションズ
- 7) 末吉美喜(2019)「テキストマイニング入門 ExcelとKH Coderでわかるデータ分析」オーム社